

塩田町民生委員児童委員協議会だより

つむぐ

第3号

発行 令和3年3月10日
 発行元 塩田町民生委員
 児童委員協議会
 責任者 諸岡 博子
 題字 諸井 愛子



塩田町民生委員児童委員協議会
 会長 諸岡 博子

コロナ禍での活動の特徴

新型コロナウイルス感染防止に伴い、国から「新しい生活様式」が提案されました。3密「密閉、密集、密接」を避けるなど私達の活動にも大きく関わってくる内容です。

一般の事態ではお互いの安全を守りながら活動する難しさに直面しました。地域の行事や活動など制限さ

れる状況のなかで、高齢者や子どもたち、地域の人びとのかかわりや民生委員・児童委員活動が難しくなり、今、どのような委員活動ができるのか、人々との交流が元に戻るのか、今は委員独自で考えながら活動している状況です。

「地域に寄り添い、人々とのつながりを紡ぐ」新しい様式にあった活動を、と思っておりますが、まだまだ収束の見通しが立たない現状ですので、無理のない範囲で活動が続けられればと願っております。

今後も地道に見守り活動を続けながら、地域の皆様と関係機関のつなぎ役として、地域福祉の向上に努めたいと思っておりますのでいつでもお気軽にお声掛けをお願いします。

各月の学習内容

令和元年12月に一斉改選があり30名のうち20名が新任委員です。あらたなメンバーで委員活動をすすめていこう、と思っていた矢先に、日本中が新型コロナウイルスの猛威に襲われました。

我が町でも定例会は3月から5月まで中止となり6月からは感染予防の対策をしっかりととりながら開催しています。毎月1回の定例会は、関係機関からの説明、支援のつなぎ役となり地域活動を推進、民生・児童委員からの気づき、担当地区からの状況・情報・報告、住民の基本的人権及び人格の尊重、守秘義務の徹底等を話し合います。

令和2年度は嬉野市民生委員・児童委員「活動の目安Q&A」発刊、ひとり暮らし高齢者への災害時避難のアンケート等の取り組みをいたしました。

特集

災害弱者の安全・安心をどう築いていくか

第1部

「災害時避難のあり方」に関する
 嬉野市長宛て質問に回答

2020年9月7日に襲来した台風10号は幸いにも嬉野市に大きな被害をもたらすことなく通過しました。嬉野市総務・防災課の統計によれば、市内13の指定避難所で最高時455世帯、998人が避難者しています。

ただし、実際の避難者ははるかに多かったと思われます。嬉野市、鹿島市の旅館・ホテルは満室になりました。

一方、今回も多くの「要配慮者」（高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要するもの、難病患者、妊産婦、外国人等含む）が様々な理由により、避難されなかったことがわかっています。「東日本大震災」では死者の6割が高齢者で、障

害者の死亡率は被災者全体の2倍でした。「令和元年佐賀豪雨」においても武雄市で1人の高齢者が浸水した家で亡くなられており、記録的な大雨や台風が頻発するなか、災害弱者といわれる高齢者・障害者などのようにして安全に避難するかは喫緊の課題になっています。

2020年9月塩田町民児協定例会では避難状況の振り返りを行いました。その後、出された意見も踏まえ、杉谷広報部長が「災害時の住民避難のあり方に関する質問」（9月15日付）を市長宛提出し、回答（10月12日付）を得ました。

その一部を紹介します。（要約）

1 避難所運営について

① 毛布などの常設を

避難には「毛布や寝具・食料、貴重品やマスクや消毒液、懐中電灯などをご持参ください」とされています。超高齢社会の現在、一定数は避難所に常設して欲しい。

回答 「数十年前に1回といわれるような豪雨、台風に毎年のように見舞われる上、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止にも配慮が必要となり、避難所運営に関しても、これまでとは違った対策が求められています。」

そのような中、特に寝具（毛布、バスタオルなど）をお持ちください、とあえて強調いたしましたのは、備蓄品の毛布は避難が長期に渡った場合での使用を想定しており、備蓄数が十分でないことなどからも、短期的な多数の避難者



大草野地区地域コミュニティの避難所設営訓練の様子（R3.1.31）

への対応が難しく、持参していただかないと数が不足する恐れがあったためです。

しかしながら、諸事情により持参の難しい方もあらますので、貸し出しできるように、各避難所への配備を検討いたします。（以下、略）

② 自主避難者の把握

今回の台風10号襲来において、指定避難所以外への自主避難者が相当数ありました。潜在的避難者と考えられます。統計をなんらかの手段にとっていますか。

回答 「地区公民館などの自主的に開設された避難所については、自治会長などの代表者からご報告をいただいた場合は把握できますが、知人やホテルに避難した方の実態は、対象者あてに調査をしないとわからないため、把握が難しい状況です。」

公設の指定避難所は快適性、安全性、プライバシーを確保するには限界があるため、避ける人もあると思われる。……『命を守る行動をとる』ことは、指定避難所に行くことだけではないので、多様な避難方法についても研究してまいります」

2 「だれひとり取り残されない防災事業（インクルーシブ防災事業）」をめざして

① 避難しない人の理由をつかんでいますか

民生委員は災害のたびに、避難行動要支援者や独居高齢者に避難を勧めています。しかし、そのなかには、避難しなくても自分ではできない方がおられます。市は要配慮者がなぜ、避難しないのか、調査をしたことがありますか。

回答 「要配慮者の避難及び避難所運営に関しては、こうした場合の移送、ケアなど福祉サービスの及ばないところで、大きな課題だと認識しております。」

要援護者、要配慮者の状況の把握は、今後の課題と捉えております。避難しなかったケースの数の把握は難しいですが、実際に、寝たきりの高齢者が避難できず、自宅で垂直避難するしかなかったような事例はあったと聞いております。

また、福祉施設などを福祉避難所として指定しておりますので、受け入れが可能となるよう努めるとともに、開設した指定避難所の中で避難していただけの体制もとれるよう

う研究いたします。また、避難行動においても自主防災組織など地域の共助の枠組みを強化していくよう努めてまいります」

② 別府市などの先進自治体に学び、探りいれてほしい

こうした要配慮者に対して、全国の自治体はどのように対処しているのだろうと調べていくうちに、「別府市におけるインクルーシブ防災事業」（別府モデル）に行き当たりました。



避難所の1つ
嬉野市コミュニティセンター楠風館

第2部 救える命を救うために

「ひとり暮らし高齢者の災害時避難に関するアンケート」から見えてくるもの

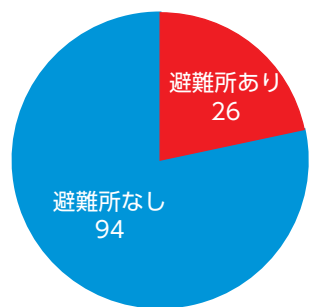
先の嬉野市の回答に「要援護者、要配慮者の状況の把握は、今後の課題と捉えております。避難しなかったケース

ここでは、「コミュニティ・ソーシャル・ワーカー」のマネジメントのもと、個々人に見合った「災害時ケアプラン」を作成しています。この方式を嬉野市でも積極的に採り入れていただきたい。

回答 「市民の危機感がこれまで以上に高まっていると感じていますので、現在ある自主防災組織を活性化しつつ、今の枠組みに多くの人を巻き込んで防災に関して理解を深めていただくにはよい機会であると思います。」

ただし、高齢化がすすみ、自助の難しくなっている嬉野市の課題は、いかに地域の防災力を上げていくにかかっていると思われ、関係部署の連携を先進地に学びながら、も特有の課題を解決ができるよう研究してまいります」

避難所へ行ったか



避難所利用を妨げている理由は、高齢者特有の移動にかかわるものや健康状態からくるものが多数を占めていることがわかりました。また、「自宅の方が安全」との回答も少なからずあり、今日の大規模化する災害に見合っているのかどうか、検証する必要性も

いました。全体で120通が集まりました。ご協力ありがとうございました。塩田町の「ひとり暮らし後期高齢者」の過半数を占めており、客観的な数字と言えます。

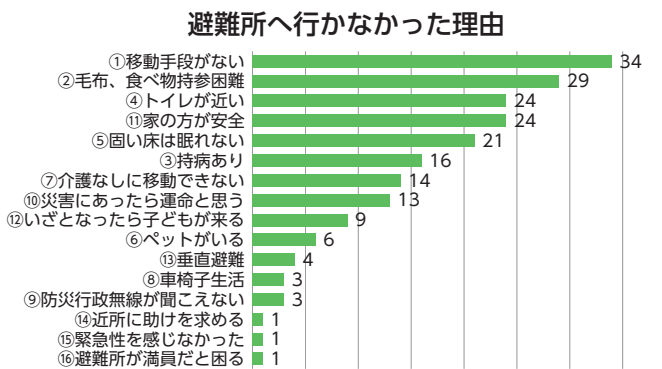
1 男女比

約8割が女性、2割が男性。

2 今まで、避難所へ避難したことがあるか

行ったことがある人は約2割で8割の人は避難所を利用していません。

3 避難所へ行かなかった理由



アンケート結果による
申し入れの様子（R3.2.12）

感じられます。この結果をもつて、塩田町民協は令和3年2月12日、村上大祐嬉野市長へ、適切な施策を講じられるよう申し入れを行いました。尚、個々人に見合った災害時避難の「個別計画」（別府モデル）は令和3年度には法制化（自治体の努力義務）される予定です。嬉野市での取り組みに期待するものです。

あつという間に一年

五町田第一、第二地区
民生児童委員 今村 秀雄



「お早う！
行ってらっしゃい」通学の児童に声をかけます。

元気な声で、挨拶を返してくれる児童もいれば、まだ眠たそうな顔をして、無言で通り過ぎる児童もいる。他県で暮らす孫の通学の様子はどうなのかな？と思いつながら、横断する児童を毎朝見送ります。

光武地区
民生児童委員 大川内 増己



民生委員になり一年が過ぎました。最初は何もわからず先輩方の後について毎月の定例会、研修会等に参加してまいりました。

就任早々新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、定例会、研修会等の自粛また、外出を控える等の集まる機会や近隣同士顔を合わせる場面が減ることにより、人とのつながりが薄くなり地域で孤立する方が懸念され、又、長期間の活動自粛により、民生委員活動にも影響しました。

新型コロナウイルスの収束と正常な活動ができるようになる事を願います。今後とも先輩諸氏のご指導のもと努力したいと思っております。

塩吹・鍋野地区
民生児童委員 植松 啓彰



就任して一年、分からない事ばかりで未だに手探りの状態です。

地区の小学生の登校に付き添い毎朝一緒に歩いていきます。子供達とは仲良くなり、自分の健康維持にも役立ち、一石二鳥です。

南志田地区
民生児童委員 西野 直美



昨年、地区の役員の方から民生委員の依頼を受け仕事の内容は右も左も判らないままにお引き受け致し、早一年が経過した今日この頃です。

民生委員とは何ぞや、から始まったこの一年で有りました。が諸先輩の方々のご指導や

助言を頂き、何とか私なりに、手探りでやって来たと言つのが正直な感想です。今後ともご指導を頂きながら、少しでも地区の皆様の相談相手になれるように努力して行きたいと思っております。

嬉野市民協が「民生委員・児童委員 活動の目安 Q&A」を作成



民生委員・児童委員は日常的に発生する様々な問題に対して、住民の立場に立つて、相談助言などの地域福祉活動を行って参りました。しかしながら、近年の複雑かつ多様化するニーズにどこまで対応すればよいか（たとえば、ひとり暮らしの方の救急搬送に同乗を求められた場合など）適切なつなぎ先がわからない、などといった悩みがありました。こうしたなかで、日頃、民生委員・児童委員が抱えている困りごとや疑問などを整理して、活動の指針としたいということで、「活動の目安 Q&A」を作成しました。編集は、嬉野町、塩田町の民生委員・児童委員と市役所担当課であたりまし

民生委員・児童委員活動状況（令和元年度）

項 目		塩田町		嬉野町		全体	
		民生委員	主任 児童委員	民生委員	主任 児童委員	民生委員	主任 児童委員
内容別相談・支援件数	在宅福祉	102		196	1	298	1
	介護保険	47		98		145	0
	健康・保健医療	40		110		150	0
	子育て・母子保健	13		47		60	0
	子供の地域生活	1,024		143	3	1,167	3
	子どもの教育・学校生活	81		121	5	202	5
	生活費	12		29		41	0
	年金・保険	4		2		6	0
	仕事	6		1		7	0
	家族関係	63		34		97	0
	住居	22	3	15		37	3
	生活環境	183		124		307	0
	日常的な支援	491	192	574		1,065	192
	その他	396		553		949	0
	計	2,484	195	2,047	9	4,531	204
分野別相談・支援件数	高齢者に関すること	811		1,450	1	2,261	1
	障害者に関すること	90		62		152	0
	子どもに関すること	1,345	195	303	7	1,648	202
	その他	238		232	1	470	1
	計	2,484	195	2,047	9	4,531	204
その他の活動件数	調査・実態把握	238		258	5	496	5
	行事・事業・会議への参加協力	754	28	1,006	37	1,760	65
	地域福祉活動・自主活動	2,363	57	936	49	3,299	106
	民児協運営・研修	515	51	797	17	1,312	68
	証明(調査・確認等)事務	159	6	261		420	6
	要保護児童の発見の通告・仲介	26		42		68	0
訪問回数	訪問・連絡活動	2,348	4	4,789	10	7,137	14
	その他	548	4	1,153		1,701	4
連絡調整回数	委員相互	624	1	818	1	1,442	2
	その他の関係機関	419	11	859		1,278	11
	活動日数	4,708	242	5,607	116	10,315	358

*塩田町は、「子供の地域生活」や「地域福祉活動・自主活動」に特徴が見られます。

育て

「塩田大好き子」

■主任児童委員になって思うこと



主任児童委員
中島恵美子

私たちが主任児童委員は塩田町内に2人いて、子どもたちの健全育成のため活動しています。市の色々な会議の場で、主任児童委員としての意見を述べる機会をいただいています。中でも、5年間の事業計画（子ども・子育て支援等）の策定や検証・評価に関われたことは、活動をしていくうえで大きな力になっています。

今回は主任児童委員として活動する中で思う2つのことについて書きたいと思います。

1つ目は、特別支援教育についてです。委員になってすぐに感じたのは「特別支援学校や特別支援学級に在籍している子どもたちが多いなあ。」という事でした。しかしそれは、嬉野市が「早期支援コーディネーター」を配置し、年中児対象の『子育て相談会』を開催するなど、早期から気になる子どもの対応をする事により、時間をかけてしっかり保護者と話し合いが出来るようになった事が主な要因だと思われまが、もう一つ、塩田町に特別支援学校が開設されたことにより、塩田の住民の特別支援教育に対する意識が徐々に変わり、理解が深まったことも大きな要因になっていると思います。今、塩田の子どもたちは、社会の一員として豊かな人生を送られるように、多様な学び場のなかで育つて

います。

2つ目は、児童虐待についてです。塩田町も例外ではなく、虐待はあると感じています。

虐待を受けている子ども達も、一番安心して生きる事ができるはずの家庭の中で、居場所が無く心に深い傷を受けています。もし自分の地域で「この子はちょっと変だなあ」と感じたら、まず地域の民生児童委員や学校等に様子を知らせてください。そして、明るく挨拶をお願いします。誰でも、自分に関心を持ってもらっていると感じる嬉しいものです。

その他にも、様々な理由で学校に行けない、教室に入れない子どもたちもいます。地域の方みんなで優しく見守りましょう。「塩田大好き」な子ども達に育ってほしいと思っています。

リレー随想 (3)



中久間地区
民生児童委員
西村貴美子

近くに住む妹がひとり暮らしの母の世話をしている頃、主人が「いつまでお母さんをひとりにしておくのか」と、言うので2人で帰って来て一緒に住んだ。母の通院の為に車の免許を取った。母と主人を見送った頃、民生委員のお話が出来た。両親がお世話になったお礼と、近い将来お世話になるであろう自分の為に不安はあったが引き受けた。わからない事は区長さんに報告、連絡、相談と確認をする。会の中では、お陰様で皆さんにご協力頂いて今にいたる。

久間地区では「見守り隊」が熱心だ。我が区も、ほぼ毎日、区長さん、2人の壮年さんと私、時々、保護者の方々と一緒に子ども達の登校時を見守っている。その中で嬉しい事があった。毎日お母さんと一緒に登校してきた新一年生の男の子が夏休みが終わるとみんなと一緒に登校した。次の年から妹さんの後を歩く頼もしくなったお兄ちゃんの姿があった。今も気になるお母さんが居るが、この先の成長がとても楽しみだ。

橘曙覧の「たのしみは……」にならって、

たのしみは 朝おきいでて 昨日まで なかりしらの 顔を見る時
「コロナ禍で、活動も自粛、中止が続いている。」「3密」ができるように願っている。



「嬉野市民児童協 活動の目安とQ&A」の編集に関わり、民生委員制度の歴史を学んだ。

大正5年、岡山県知事・笠井信一は宮中で開かれた地方長官会議において、大正天皇から「県下の貧民はいかに暮らしているか」とご下問を受けた。答えられず、帰って調査。すると県民の1割、約10万人が貧困状態にあることが判明し、翌6年、民生委員制度の源である済世顧問制度を立ち上げた。

大正6年、大阪府知事・林市蔵は知事に就任するとすぐ市民の生活を視察し、窮状を目の当たりにした。小河滋次郎法学博士とともに救済事業を研究し、翌7年、民生委員制度の礎となる方面委員制度を創設した。

関東大震災の発生、金融恐慌などを背景に、昭和4年、救護法が制定された。しかし、予算がつかず、施行は無期延期とされたが、全国の方面委員による実施促進運動によって、昭和7年に施行されることになった。運動には渋沢栄一の支えがあった。

歴史は、現地調査（フィールドワーク）と社会運動（ソーシャルアクション）の大切さを教える。

今回、先人に倣い、私たちはひとり暮らし高齢者の災害時避難に関するアンケート調査を行い、市長へ要望書を提出した。